令和元年度　洋野町立種市小学校　《発行日：令和元年１２月１８日》

校報 水緒

No. 1275
元年度・第１３４号

成功する子と失敗する子

…何が「その後の人生」を決めるのか…〔その１〕

期末面談では、２学期の主に学習と生活について子どもの姿を共通理解するだけでなく、今後ますます健やかにたくましく成長するための話し合いもできればいいですね。

２月に予定されている新入学生の一日入学の時には入学予定の保護者の皆さんから「入学前にひらがなを教えておいた方がいいでしょうか」、「入学前に、たし算を教えておいた方がいいでしょうか」などの質問をよく受けます。そのような質問は、わが子の健全な成長を願う保護者の最も関心のある内容であると思います。

「小学校期に何が一番大切でしょうか？」と、小学校期で身につけたい大切な価値観やしつけ、教育方法や教育論、人生観などを問うた時に、「おそらく 10 や 20 もの多様な回答が寄せられるはずです。４月に各家庭から提出された『家庭環境調査票』に「保護者としてどんな子に育ってほしいと願っていますか」という欄があります。

〔その欄に書かれている主なもの〕

- 明るく、元気な子に育ってほしい
- 心根の優しい人の傷や痛みがわかる子
- 協調性のある子
- 健康であいさつができる子
- 他人に迷惑をかけない子
- 何事にもチャレンジする子
- 人の事を自分の事のように思いやれる子
- 優しく思いやりのある子
- 常識のある子

全学年とも「勉強」に関することはほとんどなく、多くは「健康」と「社会性や人間性」などに関することでした。

アメリカのフリージャーナリストのポール･タフの「成功する子、失敗する子～何が『その後の人生』を決めるのか～」という本に、「成功する子」のヒントが多く書いてありました。

〔その表紙カバーに書かれている内容〕

- アメリカの最新教育理論。好奇心に満ち、どんな困難にも負けずに何よりも「幸せ」をつかむために、子ども達はどんな力を身につければいいのだろう？　神経科学、経済学、心理学…。最新科学から導き出された１つの答えとは…
- 良く育つ子と道を踏みはずす子どもがいるのはなぜか？教育経済学者が注目する「非認知的スキル」育成の驚くべき効果！
- 大人は子どもとどう関わるべきか最新科学で解き明かした１冊。

その本では、「『非認知スキル(能力)』をしっかりと高めておくことが重要である。」との方向性・結論を出しています。

【非認知能力とは】

２０００年にノーベル経済学賞を受賞した、ヘックマン博士やアグネス･チャンが繰り返し提言している能力で、テストや試験ではかる事ができない力で、例えば、自分の興味が出たことに対して努力をすることと、好奇心を持つといったような「意欲や関心」、みんなと協力したり相談したりして何かを成し遂げるといった「協調性」、上手にできなかったときも粘り強く続けるといった「忍耐力」などがそれにあたります。

一言で言えば、正しく生きていくために必要な力といえます。社会人として伸びる人と伸びない人の違いの１つに、この『非認知能力』の有無があると言われおり、２０２０年からの大学入試もこの『非認知能力』の有無が試される内容に変わっていく予定となっています。『非認知能力』は、心の知能指数（ＥＱ）などで構成されており、自己管理能力やテストや試験で測る事ができない力、認知的スキル（知能検査で測れる知力、および読み書き計算の能力）以外のものといった意味で、人格の特徴や性格、気質、人間性、社会性、通知票での「生活の様子」などとも近い概念となります。

【非認知能力の構成要素】

この本の著者、ポール・タフ氏は、あらゆる研究と実践の結果、その後の人生の満足度や達成度と特に深くかかわる『非認知能力』の項目として、「やり抜く力」と「自制心」、「意欲」、「社会的知性」、「感謝の気持ち」、「オプティミズム（楽天的)」、「好奇心」などを挙げています。それを項目ごとに分類すると、下の３種類となります。

・目標を達成するための「粘り強さ」、「がまん」、「目標への情熱」
・他者と協力するための「社会性」や「相手への尊重・敬意」、「思いやり」
・情動を抑制するための「自律心（感情をコントロールする力)」、「自信」

【幼児期に非認知能力が身につかない主な理由】

この本の著者、ポール・タフ氏は、その原因を幼児期における３点について述べています。

①幼児期における、親子の心と体の「ふれあい」の機会が不十分であること。
②幼児期における、育児放棄などに代表される虐待や、子どもの前で日々繰り返される夫婦喧嘩などによる「心的外傷後ストレス障害」を負っていること。
③幼児期における「失敗を乗り越える力」の獲得が不十分であること。

※非認知能力については、次号以降に続きます。

前号で紹介した『誰もが知っている大企業の管理職の方』が嘆いていた新入社員は、テストの点数などの「認知能力」は優れている、いわゆる「頭の良い人」だったのでしょうが、成功する子としない子を分けると言われている『非認知能力』がまだ不十分だったのかも知れません。

今まで何度か紹介してきた平成２５年度の洋野町生涯学習推進大会（26 年 2 月 1 日）での「未来を担う子どもの育てる」と題してのアグネス･チャンさんの講演会も『非認知能力』の重要性について、具体例を示しながらのすばらしい内容でしたね。アグネス･チャンさんのその時の講演会内容は、後日紹介いたします。